

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	企画振興部空港企画課	職	課長	氏名	三浦 富士夫
評価者	組織	企画振興部空港企画課	職	課長	氏名	白井 晴基

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	小松空港の国内線・国際線の航空ネットワークを活用した人・ものの交流の促進	1 小松空港の利用者数(国内線)	千人	1,360 H37	1,510 (H27)	1,492 (H28)	B
		2 小松空港の利用者数(国際線)	千人	300 H37	183 (H27)	195 (H28)	
		3 小松空港の貨物取扱量	トン	30,000 H37	10,859 (H27)	14,453 (H28)	
施策2	のと里山空港の利用促進とにぎわい創出による地域拠点としての活性化	のと里山空港の利用者数(国内線、国際チャーター便)	千人	155 H37(23年目)	157 H27(13年目)	161 H28(14年目)	B

施策	施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題				課題に対する主な取り組み						評価	
	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
施策1	課題1 国内定期航空路線の維持・拡充	利用者数(国内線)	千人	1,360 H37	1,510 (H27)	1,492 (H28)	小松空港国内線利用促進事業	利用者、航空会社等	70,000	77,000	B	拡大
	課題2 国際定期航空路線の維持・拡充	利用者数(国際線)	千人	300 H37	183 (H27)	195 (H28)	小松空港国際線利用促進事業	利用者、航空会社等	53,274	63,274	B	継続
							タイ・香港路線開拓推進事業	利用者、航空会社等	20,000	5,000	C	継続
課題3 国際物流拠点化の推進	国際航空貨物取扱量	トン	30,000 H37	10,859 (H27)	14,453 (H28)	小松空港国際貨物利用促進事業	航空会社、フォワーダー、荷主等	17,380	17,380	B	継続	
施策2	国内定期路線の維持・拡充	利用者数(国内線、国際チャーター便)	千人	155 H37(23年目)	157 H27(13年目)	161 H28(14年目)	のと里山空港需要拡大等強化事業	県内・首都圏利用者等	144,100	200,100	B	見直し
							のと里山空港二次交通支援事業	県内・首都圏利用者等	2,710	2,710	B	継続
							国際インバウンドチャーター便運航支援事業	県内・首都圏利用者等	12,000	12,000	C	継続

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 小松空港国内線利用促進事業	事業開始年度	H24	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等			

作	組	織	企画振興部空港企画課		
成	職	氏名	主任企画員 伊東 平裕		
者	電話番号	076 - 225 - 1337 内線 3725			

事業の背景・目的
 小松空港の国内線の維持充実を図るため、平成24年3月に策定された「小松空港活性化アクションプラン」に基づき、具体的な取組を戦略的に実行に移すとともに、平成24年度に設置された小松空港活性化委員会に置いて引き続き中・長期的な課題解決に取り組んでいるところ。
 平成28年度は、北陸新幹線金沢開業の影響を大きく受けている羽田便について、これまで実施してきた取組を検証し、更に必要な対策を実行するとともに、航空の強みである乗継利用について引き続き促進を図る。

- 28年度事業の概要**
- ・航空利用促進PRの実施
 - ・ビジネス利用サポートキャンペーンの実施
 - ・観光需要創出のための旅行商品の造成、PRの強化
 - ・航空会社と連携した乗継の周知及びキャンペーンの実施

28年度の方向性
航空利用促進PR
 減便によるマイナスイメージを払拭するため、メディアを活用した航空利便性のPRを集中的に実施

ビジネス利用対策
 小松・羽田便の積極的な利用を宣言する企業の利用を後押しするため、利用回数に応じて特典を付与するキャンペーンを継続実施

- 観光需要対策**
- ・福井県との連携により石川福井周遊旅行商品の造成
 - ・地域資源を活用した首都圏発の旅行商品造成・PR
 - ・旅行会社と連携した地元発航空利用商品のPR強化

- 乗継利用の促進**
- ・航空会社や航空乗継利用促進協議会会員と連携したPR
 - ・乗継就航地双方での旅行商品造成

これまでの見直し状況
 ◇平成27年10月より、小松・羽田便のビジネス利用の促進を図るため、同便の積極的な利用を宣言する企業を対象に、利用回数に応じて特典を付与する小松・羽田便ビジネス利用サポートキャンペーンを開始

施策・課題の状況						
施策	小松空港の国内線・国際線の航空ネットワークを活用した人・ものの交流の促進				評価	C
課題	国内定期航空路線の維持・拡充					
	指標	利用状況(国内線)			単位	千人
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	1,360	2,025	2,121	2,126	1,510	1,492

事業費						
(単位:千円)						
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
事業費	予算	21,840	22,072	42,594	34,300	70,000
	決算	21,840	20,666	42,594	44,300	77,000
一般	予算	17,840	22,072	38,594	34,300	50,000
	決算	17,840	20,660	38,594	44,300	53,250
財源	決算	17,840	20,660	38,594	44,300	53,250
事業費累計	決算	21,840	42,506	85,100	129,400	206,400

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> <p>羽田便については、H28年夏ダイヤより1日12便から10便となったものの、H28年度の利用者数は約109万人、対前年比▲2.7%と概ね前年並みの利用者確保したほか、その他路線については、札幌便、仙台便、成田便が前年を上回った。 また、H28年度の利用者数は、前年比6.3%増と堅調に推移し、乗継割引制度が徐々に浸透してきているものと考えられる。</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">拡大</p> <p>羽田便のビジネス利用サポートキャンペーンを通じて、ビジネス需要の確保を図るとともに、観光需要の喚起に向け、新たに駐車場無料券付き地元発旅行商品の造成支援を通じた需要喚起を図るなど、市町や福井県とも連携して、ビジネス・観光の両面で一層の利用促進を図る。</p>

事務事業シート（行政経営Cシート）

事務事業名 小松空港国際線利用促進事業	事業開始年度 H5	事業終了予定年度
	根拠法令・計画等	

作組	織	空港企画課
成職	氏名	主任企画員 木村 元洋
者	電話番号	076 - 225 - 1337 内線 3733

事業の背景・目的

小松空港発着の国際定期便及びチャーター便の運航支援と定期便の利用促進を図るとともに、乗客の利便性を高めることにより、小松空港の国際化を進める。

事業の概要

事業主体：小松空港協議会

- (1) 国際定期便運航支援事業費
 - ① CIQ業務の円滑化支援
出入国審査及び検疫業務の円滑化のための支援（補助要員の派遣）
 - ② 外国語インフォメーション設置
ソウル便・台北便に係る案内人を配置
 - ③ 上海便運航支援費
中国東方航空に対し、小松空港ターミナルビルの賃料の一部助成
 - ④ ソウル便運航支援費
大韓航空に対し、小松空港ターミナルビルの賃料の一部助成
 - ⑤ 台北便運航支援費
エバー航空に対し、小松空港ターミナルビルの賃料の一部助成
- (2) 国際定期便利用国際交流促進助成事業
国際定期便を利用して国際交流を行う団体に対する助成
交付額：1団体1回10万円限度
- (3) 国際定期便利用促進事業
 - ① 国際線共通
小松空港の優位性PR、海外修学旅行の働きかけ、外国人団体の二次交通支援
 - ② ソウル便利用促進費
仁川空港乗継のPR、韓国の魅力再発信
 - ③ 上海便利用促進費
ビジネス利用促進、上海空港乗継のPR、中国再発見の魅力発信
 - ④ 台北便利用促進費
新たな台湾の魅力紹介、台北空港乗継のPR
- (4) 小松空港利用者アンケート
- (5) 運航会社との打ち合わせ経費

施策・課題の状況

施策	小松空港の国内線・国際線の航空ネットワークを活用した人・ものの交流の促進	評価	B
課題	国際定期航空路線の維持・拡充		
指標	利用者数（国際線）	単位	千人
目標値	現状値		
平成37年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
平成27年度	平成28年度		
300	151	167	188
	183	195	

事業費						
(単位：千円)		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	予算	76,330	49,874	54,474	47,474	53,274
	決算	76,330	53,874	54,474	60,664	63,274
一般	予算	76,330	49,874	54,474	47,474	53,274
財源	決算	76,330	53,874	54,474	60,664	63,274
事業費累計		630,309	684,183	738,657	799,321	862,595

評価

項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性	B	航空会社、旅行会社への働きかけに取り組んだ結果、国際線の利用者数は195千人と前年度比6.5%の増となった。 (ソウル便:前年度比124.4%、台北便:前年度比98.4%、上海便:前年度比102.1%)
今後の方向性	継続	路線ごとに利用状況、利用傾向、現地情勢および航空会社の方針等を踏まえ、適切・効果的と思われる内容に見直しながら、引き続き、路線の維持拡大や、CIQ業務の円滑化に向けた支援に取り組んでいく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 タイ・香港路線開拓推進事業	事業開始年度	H26	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等			

作	組	織	企画振興部空港企画課		
成	職	氏名	主事 森村 美咲		
者	電話番号	076 - 225 - 1337 内線 3726			

事業の背景・目的

訪日外国人客は近年増加傾向にあり、石川県においても、海外からの旅客は着実に増加している。石川県への旅客が一定程度あり、かつ、増加傾向にあるタイ・香港をターゲットに小松空港の新規国際線の開設に向けて、チャーター便の運航支援及び航空会社等への要請を行う。

27年度事業の概要

- タイ
 - ・双方向チャーターを3回実施(11月、年末年始、2月)
 - ・小松空港国際化推進石川県議会議員連盟がタイの航空会社等を訪問(10月)
 - ・航空会社からは「引き続きチャーターの実績を積んで欲しい」との声

- 香港
 - ・小松空港国際化推進石川県議会議員連盟が香港の航空会社等を訪問(10月)
 - ・航空会社からは「香港から北陸への需要は春頃に偏っており、それ以外の時期にチャーターがあれば参考になる」、旅行会社からは「平成28年度のチャーター計画は春までしか決まっておらず、夏以降については日本各地から申込みが来ている」との声

28年度事業の概要

- タイ
 - ・国際民間航空機関(ICAO)から「安全上の懸念」が示されたことにより、現在、タイの航空会社による日本への新規就航が認められない。(実績のある航空会社によるチャーター便の運航は可)
 - 引き続き、双方向チャーターを実施し、実績を積み重ねる

- 香港
 - ・香港側の訪日需要が高く、日本の地方空港へ相次いで就航
 - 航空会社、旅行会社に対して情報交換・働きかけを実施

これまでの見直し状況

施策・課題の状況

施策	小松空港の国内線・国際線の航空ネットワークを活用した人・ものの交流の促進	評価	B			
課題	国際定期航空路線の維持・拡充					
	指標	利用者数(国際線)	単位 千人			
	目標値	現状値				
	平成37年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	300	151	167	188	183	195

事業費						
	(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	予算			15,000	20,000	20,000
	決算			15,000	20,000	5,000
一般	予算			15,000	20,000	20,000
	決算			15,000	20,000	5,000
財源	事業費累計		0	15,000	35,000	40,000

評価

項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	C	小松空港の新規路線開設に向けて、小松空港国際化推進石川県議会議員連盟と協力しながら、タイ・香港の航空会社等にチャーター便等の働き掛けを行ったところ、平成28年度はチャーター便の運航はなかったものの、平成29年4月からは小松-香港チャーター便が運航されることとなった。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	平成29年4月からの小松-香港チャーター便への運航支援等を行うとともに、引き続き新規路線開設に向けて、タイ・香港等の航空会社等に働きかけを行っていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	小松空港国際物流拠点化推進事業 (小松空港国際貨物利用促進事業費)	事業開始年度	H7	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作 組 織	空港企画課				
成 職・氏名	課長補佐 森田 幸司				
者 電話番号	076 - 225 - 1338 内線 3738				

事業の背景・目的

小松空港の国際物流拠点化を図るため、上屋会社である北陸エアターミナルビル(株)や航空会社とも連携して、荷主やフォワーダー(※)に対して、小松空港利用を呼びかけ、小松空港の国際航空貨物取扱量の確保・増加を図る。

※フォワーダー…荷主から貨物を預かり国際運送を引き受ける事業者

事業の概要

国際航空貨物の利用促進(小松空港協議会) 5,980千円

1. フォワーダー、荷主への周知、PR強化
 - ①小松空港への切替を促すための支援
 - ②航空会社との連携による周知、PR
2. 小松空港集荷対策助成
 - ①フォワーダー向け集荷助成(輸出入貨物量の増加分に対し5円/kgを助成)
 - ②荷主向け輸出入助成(輸出入貨物量に対し5円/kgを助成)
 - ③通関助成(輸出入貨物量に対し1円/kgを助成)
3. 国際化推進対策事業
 - ・国際化推進セミナー開催事業 等
 - 実施主体:小松空港国際化推進協議会

北陸エアターミナルビル貨物部門への支援 11,400千円

1. 新規事業開拓助成金
2. 貨物保管料の軽減対策支援

施策・課題の状況							
施策	小松空港の国内線・国際線の航空ネットワークを活用した人・ものの交流の促進					評価	B
課題	国際物流拠点化の推進						
	指標	国際航空貨物取扱量				単位	トン
	目標値	現状値					
	平成37年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	30,000	11,584	9,004	10,802	10,859	14,453	
事業費							
	(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
事業費	予算	26,190	33,090	19,600	17,800	17,380	
	決算	24,188	19,690	19,600	17,800	17,380	
一般	予算	26,190	33,090	19,600	17,800	17,380	
	決算	24,188	19,690	19,600	17,800	17,380	
事業費累計		404,986	424,676	444,276	462,076	479,456	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	小松空港の国際航空貨物取扱量は、フォワーダーや荷主などに対する貨物の集荷助成と周知・PRに努めたことに加え、カーゴルックス航空の北米便が堅調に推移していること、平成28年1月から運航を開始したシルクウェイ・ウエスト・エアラインズ社が通年運航し取り扱いも順調に伸びてきていることから、前年比3割増となっている。					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	国際航空貨物の取扱量は世界経済の影響を受けやすく、今後の見通しは不透明であるものの、引き続き、小松空港の貨物需要の拡大を図るため、北陸3県等の荷主やフォワーダーに対し、助成を行うなど、広く利用促進やPRに努めていく。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 のと里山空港需要拡大等強化事業	事業開始年度 H13	事業終了予定年度	作 組 織 空港企画課
	根拠法令		成 職・氏名 主任企画員 今村 昌大
	計画等		者 電 話 番 号 076 - 225 - 1336 内線 3724

事業の背景・目的
 のと里山空港の安定需要の確保を図るため、首都圏市場への訴求及び地元への利用促進の働きかけを行っていく。

事業の概要
 事業主体 のと里山空港利用促進協議会

(1)首都圏需要拡大: 133, 400千円
 ～首都圏からの需要拡大(誘客促進、能登のファンづくり・リピーターづくり)の取り組み～

①新規需要開拓

- ・日本遺産「能登のキリコ祭り」等の伝統文化を活用した誘客
- ・羽田乗継による広域乗継利用の促進
- ・社会活動型体験による誘客

②片道空港利用の促進

- ・広域利用のレンタカー料金低廉化実験
- ・団体向け貸切バス助成等による片道空港利用旅行商品の造成

③二次交通の利便性向上

- ・ふるさとタクシー、観光ガイドタクシーの利便性向上による需要喚起

・ぶらり能登キャンペーン、200万人達成記念キャンペーン、ANA連携キャンペーン、リピーター囲い込み施策の展開

⑤情報発信

- ・ホームページを活用したきめ細かな情報発信

(2)にぎわい創出等: 10, 700千円
 ～県民の空港に対する関心持続と利用拡大～

①空港の賑わい創出

- ・空港賑わい創出、空の日イベント等の開催
- ・200万人達成イベントの開催

②子供サポートキャンペーンによる若い親世代、帰省客の取り込み

施策・課題の状況							
施策	のと里山空港の利用促進とにぎわい創出による地域拠点としての活性化					評価	B
課題	国内定期路線の維持・拡充						
	指標	利用者数(国内線、国際チャーター便)				単位	千人
	目標値	現状値					
	平成37年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	155	154	151	155	157	161	
事業費							
	(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
事業費	予算	123,000	110,000	110,000	108,600	144,100	
	決算	123,000	110,000	110,000	118,600	200,100	
一般財源	予算	123,000	110,000	110,000	108,600	124,100	
	決算	123,000	110,000	110,000	118,600	145,920	
事業費累計		1,275,283	1,385,283	1,495,283	1,613,883	1,813,983	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 <small>(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)</small>	B	平成28年度は日本遺産「能登のキリコ祭り」など能登の魅力を活用した需要創出や北陸新幹線と組み合わせた旅行商品の造成支援に加え、金沢駅と空港との間を移動する際のレンタカー料金の低廉化及びふるさとタクシーなど、広域観光による誘客拡大に取り組むとともに、羽田乗継利用の促進による新たな需要の開拓に向けた取り組みを強化し、7年連続で目標搭乗率を達成した。(H28.7.7～H29.7.6 65.6%)					
今後の方向性 <small>(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)</small>	見直し	のと里山空港の定期便の維持を図っていくためには、首都圏からの需要を確保・拡充するとともに、地元からの利用を維持していく必要がある。今後も引き続き首都圏を中心に能登の認知度や関心度を高め、日本遺産を活用した旅行商品の造成など、のと里山空港利用者の掘り起こしに努めていくとともに、地元からの利用促進のため、能登の将来を支える次世代の利用者に、マイ空港意識の醸成のため、空港の必要性や利便性等を働きかけていくこととする。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 のと里山空港二次交通支援事業	事業開始年度	H17	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	・計画等			

作 組 織	空港企画課				
成 職・氏名	主任企画員 吉田 裕志				
者 電話番号	076	-	225	-	1336 内線 3737

1 事業の背景及び目的

のと里山空港二次交通確保対策として、のと里山空港ふるさとタクシーへの運行支援を行う。

2 事業内容

事業主体:のと里山空港利用促進協議会

事業名 :のと里山空港ふるさとタクシー運行事業費補助金

予算額 2,710千円(のと里山空港ふるさとタクシー運行事業費補助金)

県、市町、民間の等分の負担により運行維持を図る。

<負担割合>

- 県(のと里山空港利用促進協議会) -- 1/3
- 市町(のと里山空港利用促進同盟会) -- 1/3
- 民間負担(能登半島広域観光協会) -- 1/3

(のと里山空港ふるさとタクシー)
能登・羽田便のダイヤに合わせ、空港利用者を送迎する相乗りジャンボタクシー
平成17年度から本格運行

これまでの見直し状況

平成19年度から、運行事業者に対する運行委託費見直しにより、経費を節減

平成23年度から、運行エリアを2ゾーンへ統合し、経費の節減及びサービス向上を図る

平成24年度から、利用者ニーズに応じたサービスの提供を図るため、運行エリア等の見直しを行い、利用者の利便性の向上を図る

施策・課題の状況							
施策	のと里山空港の利用促進とにぎわい創出による地域拠点としての活性化					評価	B
課題	国内定期路線の維持・拡充						
指標	利用者数(国内線、国際チャーター便)				単位	千人	
目標値	現状値						
	平成37年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	155	154	151	155	157	161	
事業費							
(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
事業費 予算	2,710	2,710	2,710	2,710	2,710	2,710	
事業費 決算	2,574	2,710	2,710	2,710	2,710	2,710	
一般 予算	2,710	2,710	2,710	2,710	2,710	2,710	
財源 決算	2,574	2,710	2,710	2,710	2,710	2,710	
事業費累計	16,104	18,814	21,524	24,234	26,944		
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 <small>(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)</small>	B	ふるさとタクシーは、事前予約制・乗合制で運行しており、一般のタクシーに比べて割安な運賃で同等のサービスを提供している。のと里山・羽田便利用者に占めるふるさとタクシー利用者の割合は、通年ベースで自家用車25%、レンタカー20%、貸切バス16%に次ぐ12%となっており、交通事情が厳しい冬期には20%近くになる月もある。ふるさとタクシーを財政的に支援することにより、のと里山空港の二次交通の確保に寄与している。					
今後の方向性 <small>(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)</small>	継続	能登のほぼ全域を対象エリアとし、のと里山・羽田便の発着に合わせて運行するふるさとタクシーは、首都圏からの観光目的の利用者が多いのと里山空港の二次交通の中心的な役割を担っている。のと里山空港の利用促進のためにも必要不可欠であることから、地元市町や民間セクターとも連携しながら、今後も継続して支援を行っていく。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 国際インバウンドチャーター便運航支援事業	事業開始年度	H15	事業終了予定年度	
	根拠法令	のと里山空港国際インバウンドチャーター便運航支援事業助成金交付要綱		
	・計画等			

作 組 織	空港企画課				
成 職・氏名	主任主事 坂室 誠一郎				
者 電話番号	076 - 225 - 1336 内線 3736				

事業の背景・目的

のと里山空港へのインバウンドチャーター便を利用した海外からの旅行誘致を支援し、のと里山空港の利用促進と地域経済の活性化を図る。

- 事業の概要**
- (1) 事業主体
のと里山空港利用促進協議会
 - (2) 助成事業者
次の助成要件を満たす旅行を主催する旅行会社
・のと里山空港発着の国際インバウンドチャーター便を利用すること
・石川県内で2泊以上すること
 - (3) 対象経費
国内交通費及び石川県内の施設の入場料等に要する経費
 - (4) 助成額
インバウンドチャーター便を利用した旅客1人につき1席5千円とする。ただし、1便あたり50万円を上限とする。
なお、相当便数の定期チャーター便を運航する場合は、助成総額において上限を設けるものとする。

のと里山空港国際チャーター便運航状況 (単位: 便、人)

区分	平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	便数(往復)	利用者数	便数(往復)	利用者数	便数(往復)	利用者数	便数(往復)	利用者数	便数(往復)	利用者数	便数(往復)	利用者数
国際線	60	12,148人	34	7,850人	55	12,468人	49	11,999人	12	2,411人	15	3,942人
うちインバウンド便	57	11,594人	32	7,342人	54	12,143人	49	11,999人	12	2,411人	15	3,942人
区分	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	便数(往復)	利用者数	便数(往復)	利用者数	便数(往復)	利用者数	便数(往復)	利用者数	便数(往復)	利用者数	便数(往復)	利用者数
国際線	5	1,072人	4	894人	14	3,608人	14	3,646人	15	3,948人	18	4,517人
うちインバウンド便	5	1,072人	4	894人	14	3,608人	14	3,646人	15	3,948人	17	4,250人

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	のと里山空港の利用促進とにぎわい創出による地域拠点としての活性化				評価	B
課題	国内定期路線の維持・拡充					
指標	利用者数(国内線、国際チャーター便)				単位	千人
目標値	現状値					
平成37年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
155	154	151	155	157	161	

事業費					
(単位: 千円)					
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費 予算	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
事業費 決算	3,000	11,860	12,000	12,000	12,000
一般 予算	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
財源 決算	3,000	11,860	12,000	12,000	12,000
事業費累計	81,270	93,130	105,130	117,130	129,130

評価	
項目	評価
	左記の評価の理由
事業の有効性 <small>(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)</small>	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">B</div> 能登地域の振興を図るためには、のと里山空港の利活用を進めることが重要であり、その一つとして、海外から観光客を呼び込み、地域経済への波及効果が期待できる国際インバウンドチャーター便の運航を促進することが重要である。 平成28年度は旅行会社への働きかけ等により、年間17往復、4,250人(前年度+302人)が国際インバウンドチャーター便を利用した。
今後の方向性 <small>(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)</small>	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">継続</div> のと里山空港における国際インバウンドチャーター便は、能登地域の観光振興を図る上で重要であり、今後も継続して支援を行っていく。